



# 清涼

# せいりょう

第6号

淨土真宗 本願寺派  
清涼山 善教寺

# 清涼山 普教寺

〒663-8184 西宮市鳴尾町 4-10-7  
0798(48)2224

※寺報の題字は親鸞聖人のご真筆より依用

# 悲しみのなかに

悲しみを背負つてしか生きることの出来ない存在なのかもしれない。

しかし釈尊は、この世が苦しみであることをお告げになるためにお出ましになられたわけではない。私の煩惱を責めるためにお出ましになったわけで

もない。この娑婆の境界で、悲しみを背負つてしか生きることの出来ない私がいたからこそ、「必ず救う」と仰る阿弥陀さまのお慈悲を説かれた。この境界は、念佛申す人生であるのだと、切なる願いを込めて『大無量寿經』をお書きくださったのだ。

今日も私の心にあの人が去来す。人に見せる、ことの出来ない涙を流しながら、想いを抱きながら、声なき声を上げて泣く。そんな私の心を、たたたお一方、阿弥陀さまはご覧になつてくださつた。そしていま「南無阿弥陀仏」の声の仏さまと成つて、私のもとへ届いてくださつてゐる。

今日も私とご一緒に仏さまがここに  
居てくださる。あの人の待つ浄土への  
道は開かれている。

A stylized illustration of a woman's face, partially obscured by a pink ribbon, holding a green beaded necklace.

を乗り越えていく道、どうすることも出来ないこの人生を支えてくださる教えが浄土真宗である。悲喜ともに阿弥陀さまのお慈悲の中であると、親鸞聖人や先輩方は「南無阿弥陀仏」の人生を生き抜いてこられた。

仏教を開かれた釈尊は、私たちが生きているこの境界を「婆婆の世界」と説かれた。「婆婆の世界」とは、悲しみや苦しみに満ちた世界のことをいう。まさに自分の思い通りにならない世界のことだ。この思い通りにならない世の中を、思い通りにしようとする煩惱を抱えている限り、私の苦しみが無くなることはないのだろう。私は

浄土真宗の教えは、苦しみや悲しみを無くす魔術や奇術ではない。ましてや私のわがままや欲望を満たす教えでもない。



毎年夏休みに、町内のみなさんがお寺の境内にラジオ体操にきてくださいます。早朝より音楽にあわせて、みんなで体を動かしイッチニ、イッチニ。  
この時期になると夏休みもうすぐ終わり。

今年の夏も暑かつたですね ☀



平成26年  
7月6日

中平了悟師をお迎えして、ご法話を聞かせていただきました。

お盆のご縁を通して、私の「いのち」の往き先、そして今は亡き懐かしい大切な方がいらっしゃる「お浄土」のお話を聞かせていただきました。  
お暑い中、2日間・計4座(回)の法要に、たくさんの方々のお参りをいたしました。

# お盆法要（歓喜会）

かん  
ぎ

え



1日目

谷川 弘顯師のご法話

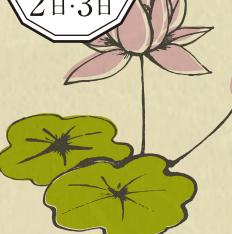


2日目

足利 孝之師のご法話



平成26年  
8月  
2日・3日



本年もご門徒の西野陽子様(里中町)より、  
お参りのみなさまへ、「御供養350個」を  
お供えしていただきました。  
ありがとうございました。



平成26年  
9月15日

# 秋季彼岸会

しゅう き ひ がん え

貴島信行師をお迎えし、ご法話  
を聞かせていただきました。

「彼岸(かの岸)」は仏さまの国  
である「お浄土」を意味する言  
葉です。お念佛の道は、お浄土へ  
と続くただひとすじの道です。



平成26年  
10月31日  
11月1日

# 報恩講

ほん おう こう



《2日目》浅田 恵真和上のご法話

《1日目》天岸 浄圓師のご法話



キョウコエユウコによる御堂演奏



報恩講はご開山・親鸞聖人のご命日の法要です。親鸞聖人のご苦労を偲び、聖人のご恩に気付かせていただくと共に、この私自身がお念佛の教えを聞かせていただき、淨土真宗のお寺で最も大切な法要です。

両日ともたくさんのお参りをいただき、ご一緒に念佛申させていただきました。

——善教寺パドマ合唱団による御堂演奏——



## 準備

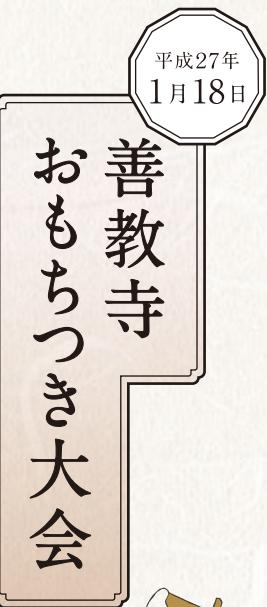
みなさんに報恩講の準備をお手伝いいただきました。  
ありがとうございました。





今年もご門徒のみなさんと新年を迎えさせていただきました。住職・副住職の法話に始まり、最後はお参りのみなさんと一緒に、お正月の歌を歌わせていただきました。

また婦人会や地域のみなさんより、つきたてのお餅がふるまわれ、おいしく食べさせていただきました。😊





堀隆史師をお迎えして、ご法話をお聞かせていただきました。涅槃会は2月15日にご入滅されたお釈迦さまをお偲びし、仏法を聞かせていただく法要です。



若林眞人師をお迎えし、ご法話  
を聞かせていただきました。  
阿弥陀さまのお慈悲につつまれ  
て、「彼岸（お淨土）」への人生を  
歩ませていただいている私の「いの  
ち」であることを、お聴聞させてい  
ただきました。

「降誕会」は5月21日に  
お生まれになられた、ご  
開山・親鸞聖人のご誕  
生をお祝いする法要で  
す。

安方哲爾師をご講師に  
お迎えし、ご法話を聞  
かせていただきました。



「花まつり」は4月8日に  
お生まれになられた、お祝い  
迦さまのご誕生をお祝い  
する法要です。

## 花まつり



# 浄土真宗の教章

宗<sup>じゆう</sup> 宗<sup>じゆう</sup>  
開<sup>かい</sup>山<sup>さん</sup> 祖<sup>そ</sup>名<sup>めい</sup>  
親鸞聖人

淨土真宗  
誕生

二七三年五月二十一日  
(承安三年四月一日)

往生

三二六三年一月十六日  
(弘長二年十月二十八日)

聖<sup>じゆう</sup> 本<sup>ほん</sup> 本<sup>ほん</sup> し

尊<sup>そん</sup> 山<sup>さん</sup> 派<sup>はい</sup>

淨土真宗本願寺派

(西本願寺)

龍谷山 本願寺  
(南無阿彌陀仏)

阿彌陀如來

(南無阿彌陀仏)

釈迦如來が説かれた「淨土三部經」

「仏說無量壽經」「仏說觀無量壽經」「仏說阿彌陀經」

宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

「正信念仏偈」「教行信証」「行卷末の偈文」

「淨土和讃」「高僧和讃」「正像末和讃」

中興の祖 蓮如上人のお手紙

御文章

阿彌陀如來の本願力によつて信心をめぐまれ、念佛を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき淨土に生まれて仏となり、迷いの世に還つて人々を教化する。

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿彌陀如來の慈心を聞き、念佛を称えつつ、つねにわが身を振りかえり、慚愧と歡喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念佛を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿彌陀如來の智慧と慈悲を伝える教団である。それによつて、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。



平成27年  
6月13日

## 永代経法要

えい たい きょう ほう よう  
清岡隆文師をお迎えし、ご法話を聞かせていただきました。

永代経法要は、浄土真宗のみ教えが「永代」にわたつて相続していくように、との心から嘗み、ともに仏法を聞かせていただく法要です。今年もたくさんのお参りをいただきました。



みなさんに永代経法要の準備をお手伝いいただきました。  
いつもありがとうございます。

準備



善教寺パドマ合唱団による御堂演奏

平成27年  
3月10日

# 仏教壯年会 婦人会研修旅行

善教寺仏教壯年会・婦人会のみなさんと、研修旅行に行つてきました。

今回は三重県津市にあります真宗高田派のご本山・専修寺への参拝と、結城神社での「しだれ梅」の見学でした。みなさんとの楽しいひと時を過ごさせていたいた、またとない機会になりました。



西田靖男  
会長より  
ご挨拶



コーラス団員募集中!

## 善教寺パドマ合唱団

### 忘年会

平成26年  
12月21日

善教寺パドマ合唱団のみなさんと年末恒例の忘年会を開催しました。ビンゴゲームや食事をして楽しく過ごさせていただきました。

みなさん今年も一年、本当にありがとうございました♪



毎月2回・木曜日の14時からコーラスの練習をしています。男性・女性、どなた様でも入団をお待ちしています。歌うことは健康には勿論のこと、仏教讃歌は歌詞もメロディーもとっても素晴らしいので心の健康にも良いですよ♪



コーラスの指導をしてくださっている  
東埜 裕子先生



本願寺・秋の御堂演奏会に  
出演しました。



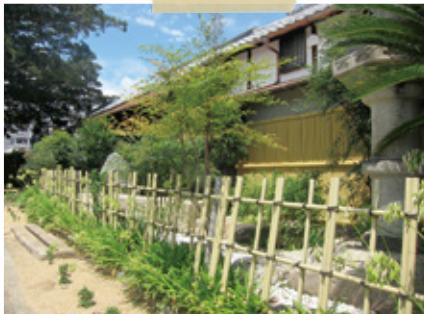
神戸別院でのコーラス  
フェスティバルに出演しました。

平成27年



ご門徒のお子さま・松原快和くんが  
初参式のお参りに来てくれました。  
ご家族のみなさんと慶びのお勤めを  
させていただきました。

初参式は、新しい「いのち」を恵まれ  
た慶びを、仏さまにご報告させてい  
ただく仏教徒の大切なお勤めです。  
初参式をご希望される方は、いつで  
もお寺へご連絡ください♪



境内に色づく緑



境内に咲いたひまわり

## お寺の畠日記



毎月6日  
14時～



NHK文化センター(神戸教室)へも  
『歎異抄』の講義へ、月1回出講しています。  
ご興味のあるお方はいつでもご連絡ください。

副住職が『歎異抄』のお言葉を  
みなさんと一緒に学ばせていただ  
いています。

どなたさまもどうぞお気軽にお  
越しください。

